

国語 第1学年 ふたりで かんがえよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：身近な物の特徴を使った問題を相談して作る。思い付いた手がかりを順に言うだけにせず、相手の案を聞いて付け加えたり、理由を尋ねたりして話を続ける。A(1)オの学習として、相談して作った手がかりカード。友達の案と、それを受けて付け足した案を区別して残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、相手の出した手がかりに関心をもち、質問や付け足しで応答しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：相談して作った手がかりカードを残す。友達の案と、それを受けて付け足した案を区別して残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：それぞれの案を交互に言うだけで応答にならない。答えを当てる速さだけを競う。これについて、問題にする実物を見ながら、色・形・使い方などの特徴を言葉にする。教師が相手の案を受けて質問するやり取りを示す。言葉が出にくい児童には特徴の絵カードを用意する。〔知識及び技能〕(1)オとA(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：相談して作った手がかりカードは紙に記録できる。友達の案と、それを受けて付け足した案を区別して残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：正解できない問題は失敗なのか。

返し：A(1)オの評価対象は相談のやり取りである。正解数ではなく、相手の案を受けた質問や付け足しを記録する。難しすぎる場合は特徴の伝え方を話し直す機会にする。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「友達の手がかりを聞いて、付け加えたいことや確かめたいことはありますか。どの手がかりから出すか、どう相談しますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

